

「意識を変えよう」

三重県 鈴鹿市立加佐登小学校 6年 草薙 結吏

8月末の台風10号。ぼくは台風と聞くと、学校が休みにならないかということばかり考えてしまう。今回は大型だが、夏休み中に過ぎ去ってしまう。夏休み中なら家にいることに変わらないのに、加えて出かけることもできなくなって残念だと思っていた。

でも報道されていくごとに台風の前なのに大雨が降って浸水してしまうところが出てきたり、九州では3週間前の地震で地盤がゆるんでいるから土砂災害に気をつけてと知らせていた。日がたつごとに線状降水帯が現れる地域が増えていき、実際にとりの愛知県では土砂災害が起こった。そこは土砂災害警戒区域ではなかったことを知り、こわくなった。区域外でも危険性があると思うと、ぼくの住んでいる所も土砂災害警戒区域ではないから安心できるわけではない。今回の台風でぼくの住んでいる所でも線状降水帯が発生して、一時すごい雨だった。ぼくの家は何もなかったけれど、お父さんの職場の写真を見ると、津市内の現場は浸水していた。無事に帰ってくるができるのか、心配していた。帰りがいつもよりおそく、不安でいっぱいになった。帰ってきたお父さんの姿を見て安心して涙が出た。帰りがおそかった理由は、帰り道の道路が冠水していて、いつもより1時間以上の時間がかかってしまったと教えてくれた。ぼくの身近でも災害が起こっていることを実感して、他人事とは思えなくなった。この出来事が家にいることができる夏休みで、家族みんなと連絡がとれる状況でよかったと思直した。

ぼくの家族はお父さん、お母さん、お兄ちゃん、妹、おばあちゃんがいる。みんな健康で障害もない。夏休み中に図書館で認知症の本を借りて、読んだ。そこには認知症は物忘れや、時間や場所、人がわからなくなるなど症状がある。またそこから気分の変化があつて怒りやすくなったり、迷子になってしまうことがあると書いてあつた。もしこの人たちが避難所にくると、知らない場所で不安になり、自由に生活できなかつたり、声を出せなかつたりしてストレスがかかってしまうと思う。だからこそ何もない時に避難所ツアーをして、避難所を知っておいてもらえたり、近所の地域の人たちに助けてもらえるように、つながりを作っておくことで声かけができるのではないかと思う。いつ起こるかわからない災害だからこそ、日頃から地震や土砂崩れ、豪雨や豪雪などが起こった時の避難の仕方を想定することが大切だと思った。

今年は広島で起きた土砂災害から10年。被災地では砂防ダムが30か所設置されたり、地下には水がためられる設備も作られたと聞いた。しかし、これは一部の設備であつて確実に命が守られるわけではない。やはり重要なのは、自分の身は自分で守るという意識で、適切な避難行動をとることである。自分には起こらない。まだ大丈夫という安易な考えが被害につながってしまう。今後も世界の異常気象は続くだろう。だから予想もしない災害が起こるかもしれない。普段から情報に耳をかたむけ、一人一人が早めの行動を取ることを心がけていくことが必要である。